

今井館教友会文化講座（2025年度後期）

「苦しみを生きる 未来への希望とともに」（続）

世界は、ウクライナ、パレスチナなど、新たな戦争の世紀のなかで、分断とディストピアの風景が広がっています。また、人の生き方はじめ、地球環境問題など、現代社会は大きな困難に直面しています。

今回の今井館教友会文化講座では、今井館で発行した『内村鑑三のことば』をもとに、「内村鑑三の信仰宇宙」と非戦論を生きたその生涯を考えると同時に、ノーベル文学賞を受賞した二人の女性作家ハン・ガン（韓国）とスベトラナ・アレクシエーヴィチ（ベラルーシ）の作品を通して、戦争や暴力の記憶から愛の物語へ、その希望を伝える同時代の世界文学を見つめます。——「苦しみを生きる 未来への希望とともに」。

講師：小林孝吉

第1回 内村鑑三の信仰宇宙——『内村鑑三のことば』
2026年1/31（土）10時～11時30分



第1回申込フォーム

第1回 <https://forms.gle/pq1PjTarDnn4oPfg6>

第2回 ハン・ガンとアレクシエーヴィチの文学——愛といのちの物語
2026年2/21（土）10時～11時30分



第2回申込フォーム

第2回 <https://forms.gle/amq7wPCBrNs3PACYA>

場所：今井館教友会 2階集会室

参加費：各回 千円（当日現金）

参加方法：各回googleフォームからお申し込みください

主催・お問い合わせ

特定非営利活動法人 今井館教友会

※ご記入いただいた個人情報は、上記の利用目的のみに使用し、第三者に提供することはありません。

※電話でのお申し込みは受け付けておりません。

※問合せ先 event@imaikankyoyukai.or.jp



第1回 内村鑑三の信仰宇宙——『内村鑑三のことば』

1/31（土） 10時～11時30分

日本近代のキリスト教思想に、広くは社会や歴史、文学などにも影響を与えてきた内村鑑三の言葉を編んだ『内村鑑三のことば』（今井館教友会発行、2025年）を通して、そこに響き合う「信仰宇宙」とその生涯を希望とともに見つめ直します。そこには、二つの「J」（イエスと日本）に生きた預言的な天然詩人の姿も見えてきます。

第2回 ハン・ガンとアレクシエーヴィチの文学

——愛といのちの物語

2/21（土） 10時～11時30分

2024年にノーベル文学賞を受賞した韓国光州市生まれの作家ハン・ガンの『別れを告げない』『少年が来る』と、2015年受賞したウクライナ出身でベラルーシの作家スベトラナ・アレクシエーヴィチの『戦争は女の顔をしていない』『チェルノブイリの祈り』などを取り上げ、戦争や暴力の記憶からつむがれる愛といのちの物語を考えます。

講師



小林孝吉（こばやしただかよし）

NPO法人今井館教友会監事

文芸評論家。明治学院大学文学部卒業。博士（学術、九州大学）。

著書

『椎名麟三論 回心の瞬間』（菁柿堂）、『滝沢克己 存在の宇宙』（創言社）、『内村鑑三 私は一基督者である』（御茶の水書房）、『原発と原爆の文学』（菁柿堂）、『内村鑑三の聖書講解』（教文館）、『内村鑑三の信仰詩・訳詩・短歌等集成』（編著）、『後世への最大遺物』（現代語訳）、『内村鑑三 再臨の風景』（九州大学出版会）他。
1953年生まれ。

